



ドールと
なまなま!!

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



永琳さんと身体を交えるようになって一年近くが過ぎた。毎日毎夜会えることはなく、少しだけの機会に思いの丈をぶつけられることもあった。今回もまたそんな一時の情景である。

一年の間に交わった数なんて覚えていない。それくらい、彼女の中に精を放ってきた。

永琳さん…いや永琳は子を生ず事ができるのだろうか。彼女に聞いたことはないが、出来ると信じて、これからも彼女と交わろう。

しかし、実際彼女は永遠を生きる人だ。そんなつもりもないかもしれない。

ただ一時の相手として自分と交わってくれている。そんな予感もしてしまうが…

その銀髪は艶やかに、麗しくその肢体は艶かしく、メリハリがあり、何度交わっても飽きさせない。

時には優しく、時には情熱的に。そんな彼女がとても好きだ。足しげく永遠亭に向かってしまうのもそれは致し方ないのだ。



彼と知り合ってから一年以上が過ぎた。
この一年はまた色々あったような気がする。

今まで特に変わらない皆との生活に
一つの分岐点が出てきたのはいいことなのだろう。
わたしも、結局は一人の女だったのだ。

彼はどう思っているのかしら。
私が中々子を宿さないことを。

実際こんな経験なんてしたことがなかったし、
彼が初めての相手だったのだ。
そしてわたしは不死である。
薬をつくったのは自分だ。
が、姫様…輝夜もそんな経験はないだろうし
聞けるはずがない…と思っていたところに、
あの写真だ。

同じ薬を飲んだ妹紅が子を授かったのだ。
正直診察したときは驚きを隠せなかったし、
そんな事が彼女におきるとはおもわなかった。
大層、輝夜も驚いたことだろう。
(まあそのあとの依頼のほうが驚いたのだけれど)

なら、私も子を授かることはできるのだ。
ならば、いかようにも手のうちようはある。

「いやだわ…私ったら、そこまで彼との子が欲しいなんて…」
誰に聞かれるわけでもなくつぶやいてしまった。てみに聞かれたら何をされるかわかったものじゃないわ。

しかし、子を授かってしまったらあの人は、どう思うのだろうか。喜んでくれるかしら。
不安にもなるが今までのことを考えると、それはないと断言できる。

ならば、早めに事を移そう。彼には特製の絶倫薬を。
自分には、改良を加えた排卵誘発剤を。効果があるかはわからないけれど…。





「ねえ…今日はずっと一緒にいられるのよね？」
永琳さんは横に座ると、身体を預けてきた。
熱があるのでは、と思えるほどその身体は熱くなっていた。
蒼く澄んだ瞳はあなたを捉えて離さない。

「さっきのお茶にね…その薬を混ぜさせてもらったの」
「あ…蓬莱の薬じゃないから安心して？」
「その…わたしもね、子供が…欲しくなって、薬つくってみたの、すごいの」

先ほどから身体の一部が熱く、
いつもより激しく永琳をむさぼりたいと思うのはそのせいだったのかと納得した。

「ごめんなさい、その…あなたのことを考えたら…あ…」
あなたは構わないよと囁きながら、永琳をぎゅっと抱きしめた。

「ん…嬉しい、…好きよ、愛してる」



久しぶりのキス...
気持ちいい...
んん...
舌...
交わって...
感じすぎて...
しびれちゃう...



優しい手…優しいキス…
ん…愛されてるのがわかる…
きもちいいわ…
私も、もっと好きになっちゃうじゃない…



[ん…ふう…キスだけですごい感じちゃうなんて…これもクスリの所為なのかしら…んんんっ]



わたしは
あなたのもの
だから…ね。

ふふふ
やっぱり
おっぱいからよね
ほら…
あなたの好きにして。

あなたが好きにした
せいかしら…ね…んっ
胸…気持ちよすぎて…

あ…あ…あ…
あ…あ…あ…
あ…あ…あ…



それじゃ
今度はわたしから...



あ...あ...あ...



あ...っん♪
期待しちゃって
どろどろのおまんこ
見られちゃってるっ



わたしがっ
してるのじ
い
な
め
ん
ち
や
だ
め
え





薬のせいかしら
いつもより大きい
ぢゆる…っんくっ
お汁…ん…あいら

わたしだって
負けて…っ…んっ

だめっ…え
もう…こんなの
耐えられ…ないっ

んあ…っ
ねえもういいでしょっ？
わたし…んっ
もう！

薬のせいかしら
普段じゃ
いえないことも
スラスラいえちゃう...



はやく子作りしたくて
濡れ濡れになったくて
おまんこ...っ
好きにしていいのよっ

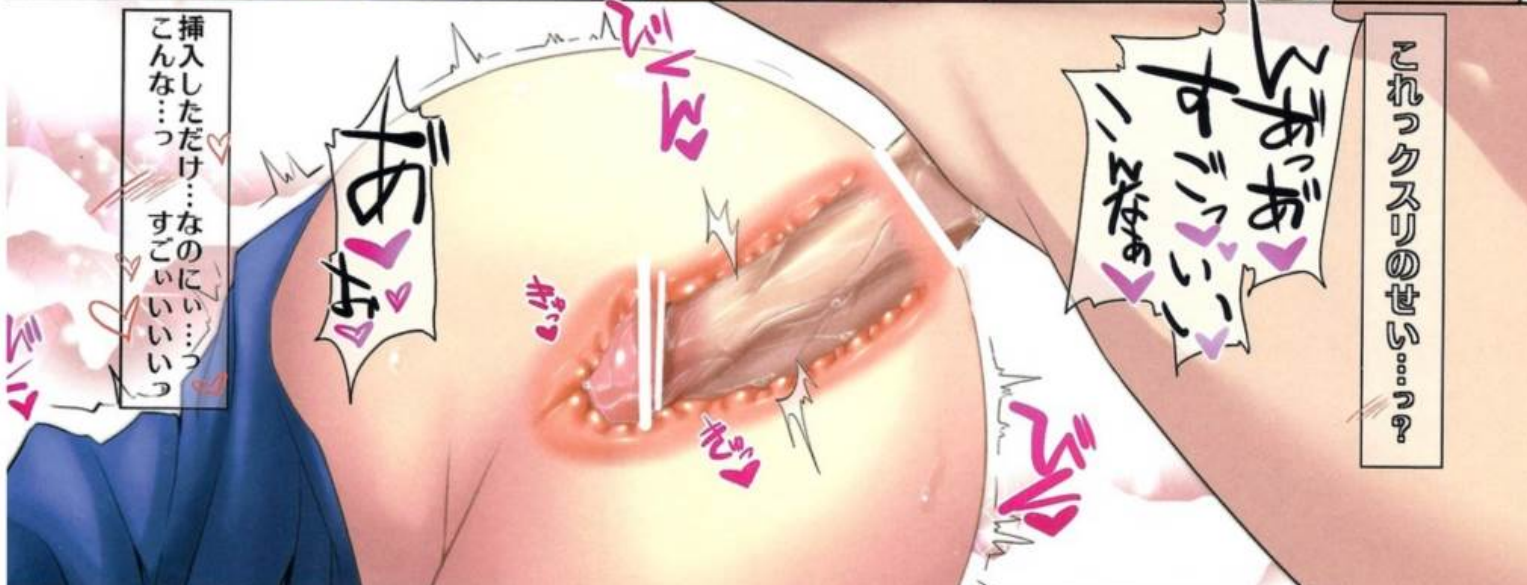
ほろも...
すくすく...



はやく...
ちやうだ...



ズッ
ズッ



挿入しただけ...なのに...
こんな...
すこいいいっ

ズッ
ズッ
ズッ

これっクスリのせい...



子宮がゴクゴク
せーえき飲んでるの
わかるう……っ
受精……するっ





アリス
アリス

アリス

自分だけ
おれだけ
おれだけ

あ...

アリス

アリス

アリス

アリス

アリス

アリス

アリス

何度も射精してるのに
ぜんぜん量が...っ
あ...またあ
おまんこから溢れて
すごい光景...っ
こんなのはじめて...っ
あなたも...わたしを
孕ませたかったの...?

アリス...
アリス...
アリス...

アリス...
アリス...
アリス...

アリス
アリス

アリス

あとがき

以前に永琳本を描いてから、もう1年が経ちますね。こんにちわ、そしてはじめまして。すていえるです。

夏の時と同じような、eraコマンドに対応したイラスト？本にしようとしていたのですが、気づいたら普通にフルカラーの漫画らしきものになってしまいました。いかがでしたでしょうか。いつもどおりのすていえる脳な本ですいません。ひひ。あと、今回はスッパじゃなくそうと描きました。あと必ず髪はほどく。ほどくシーンも描こうと思ったのですが、そこはね。泣く泣く除外しました。

5月あたりに一人えーりん祭をしていた段階で、いつかフルカラーで永琳本描きたいなって思いはありました。去年の冬にちょっと描いたのがずっと心に残ってましたしね。んー…綺麗ですよ。永琳。

夏をふまえて今回ふみきったわけですがやはり作業時間が少なかったですねえ。まあ少ないといつつMHP3はきっちり上位になってしまってるのは、目をつむりましょう。ええ、つむってください。だって…同人戻ってくるまで2年以上ハンターだったから…。

脱線してしまいました。えーりんは描いていて、とても気持ちよくなるキャラです。髪が好きなんです。ほく。キレイな長髪とかもうだめです。黒とか好きなので、姫様もありっちゃありますが。

ゲームでの出会いは当然永夜抄です。唯一ノーコンでクリアできた東方シリーズじゃなかろうか。今やったら、確実にだめでしょうけれど。千年幻想郷は、ほくのなかで一番好きな曲です。今回もよく原稿中流してました。



左の絵ですが、一年前の冬コミで出した本の裏表紙です。塗りを少々いじって掲載してみました。気に入ってはいたので。

思い返せば、会場で修正を入れたのはこの永琳本だったのですね。ハ、懐かしいナア。

今後も永琳本を出せたらいいなあと言ったりしちゃいますが、今度の新刊は…どうなるか。

そろそろ…ほくもね。元に戻るべきときがきたかもしれない。でも永遠亭のメンバーも描きたいっていうのもあるんです。この浮気性どうにかならないのか。。

次回イベント参加予定は、当然、3月の例大祭になります。受かればいいな。あ、でもフルカラー本はないです。

それと例大祭あわせていろいろ出来ればいいなーと思います。

無事、この本が皆様の手元にありますよう祈りつつゞさせていただきます。

2010年12月16日 自宅にて





Handwritten signature or initials in the bottom left corner.





トキ
タカ

奥付

■誌名
えーりんとかづくりなう
(限月:8冊目)

■サークル
限月

■発行日
二〇一〇年十二月三十日
コミックマーケット79

■発行者
すていえる

■印刷所
アクシス出版株式会社様

■メールアドレス
taoyaka3@nifty.com

■ホームページ
<http://pixiv.cc/stiel/>

■PixivID
773856

■すていっかむ
stiel.taoyaka

■ついったー
stiel_

フルカラーを受けてくれた
ゲストさま。感謝感謝です。

■サエモンさん
ID:217257

■Aとしさん
ID:6409

■神影霧乃さん
ID:1293631

■トキタカさん
シークレットなう。

